



会員の心をひとつにして、「みんなの連合会づくり」のために、全力投球

北海道ふるさと会連合会 会長 伊野達哉

各ふるさと会の会員の皆さまには、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

当連合会は、今年、創立35周年目を迎えます。まさに、光陰矢の如し、これまでの数々の歴史がよがり、感慨を覚えます。

この節目の年、明るいニュースといえは、何といつても、「ロンドンオリンピック」における我が日本選手団の活躍を上げることができません。メダル獲得数は、38個（通算400個）。選手たちが熱く、燃える姿を見て、私たちも新たなパワーと勇気を得ることができたのではないのでしょうか。

こうした嬉しいことがあった一方、あいかわらず政治・経済は不安定で、暗雲低迷の状態にあります。ヨーロッパの金融問題の悪化もあって、なかなか回復の兆しが見えませんが、一日も早い好転を切に願います。

●「新年交礼会」には高橋はるみ知事も出席
2012年が明けての新年会は、1月21日（土）に、明治記念館（信濃町）において開催。

高橋はるみ北海道知事をお迎えして、賀詞交換を兼ねての新春の会でしたが、来賓をはじめとして、各ふるさと会、企業会員の方たちが出席してください、会場は人波にあふれました。例年に比して、50名近くも出席者が増えて総勢220名、嬉しいかぎりです。

会長の挨拶と開会宣言に続いて、高橋知事に「北海道新幹線」の認可が下りそうですとの

話しがでて、一同、拍手喝采となりました。高橋知事には、会員の方たちに激励の言葉をいただき、写真を共にして、懇親を深め、交流の輪をより広げていただいたことに深謝いたしております。

来賓を代表して、斎藤貞夫北海道国際航空株式会社社長のご挨拶を頂き、懇親会に移りました。和気藹々のなかに行進、大抽選会ではエキサイティング、我が故郷自慢の「秋サケ」のお土産には、いつもながらの歓声が上がりました。

●「第35回定期総会」には、100名が出席
新たな節目となる第35回目の総会は、5月12日（土）、千代田区の日本教育会館喜山俱樂部において開催しました。

長引く不況と東日本大震災の影響もあり、正直、総会出席者も少ないのではなかろうかとの杞憂がありました。実際には、各ふるさと会、企業会員の方たちが例年を超えて約100名も出席してくださいました。そのことに對して、まずは、お礼を述べました。

また、当会に加盟しているふるさと会と企業会員が、昨年末、念願の100団体になったことを報告し、感謝の気持ちを伝えました。

公共性の強い団体として、当会では、今期も引き続き、最大のイベント（北海道フェア代々木）の共催。北の大地の物産を開東圏に広げ、定着させることで、私たちの故郷北海道の発展に寄与する、それが目的です。

次に、当連合会の運営について事業報告。平成23年度の収支報告に関しては、厳しい環境のなかにあつて、赤字を出すこともなく、決算できたことを報告し承認を得ました。続いて、平成24年度の事業計画、予算案に入り、原案通り可決されました。

総会終了後は、懇親会場に移り、料理に舌鼓を打ちながら、故郷の自慢話に盛り上がり、そして、本年度の事業計画案については、前向きに取り組むことを約して、閉会。

●最大イベント「北海道フェア」大盛況
今年の「北海道フェア代々木2012」は、10月5日（金）から8日（月・祝）と、例年より1日多い4日間の開催でした。

各ふるさと会、企業会員共々、何らかの形でフェアに参加、ご協力とご支援をいただき、会員が心をひとつにして、みんなでフェアを盛り上げ、過去最大のイベントとして成功することができました。

結びの言葉として、「一言、付け加えると、「連合会に加盟してよかった」といつていただけに、会員間のコミュニケーションをより密接にして、心をひとつにまとめた、と。そう思っております。「みんなの連合会」づくりのために、私も微力ながら、引き続き、頑張っていく所存でありますので、会員の皆さんのお力添えをいただきたく、改めて、よろしくお願い致します。ありがとうございます。

どうぎんは北海道のみなさまにお約束します。

どさんこバンク宣言

- 最高の笑顔でお迎えます。
- 最前の努力をいたします。
- 最適な提案をいたします。



知りたいことも、伝えたいことも、あなたと私、ここで暮らすみんなのために。

北海道新聞には伝えたいことがたくさんあります。私たちの伝えたいことは、北海道で暮らす多くの皆さんに知ってほしいこと。私たちの伝えたいことが皆さんの知りたいことになる。そんな瞬間を大切に考えます。ここで暮らすみんなのための「わかるをつくる」それが私たちの仕事です。



わかるをつくる

北海道新聞